

# 1 目指す2035年の姿と県の施策の一覧図

## 共通視点「人」

人 1	担い手を確保・育成する	①次世代の本県農業・水産業を担う新規就農・漁業就業者の確保・育成 ②未来の本県農業を担う中核的な農業者の育成 ③子ども・若者など誰もが憧れる経営体の育成
人 2	農業・水産業、農山漁村を支える多様な人材を確保・育成する	①地域農業や農村を支える多様な主体の確保・育成 ②農業・水産業に関わる支え手の拡大
人 3	農業・水産業の魅力発信によるファン拡大	①食育によるファン拡大 ②都市と農山漁村の交流、農業・漁業体験等によるファン拡大 ③本県農業・水産業の魅力発信

具体的施策

## 視点「環境」

環境 1	琵琶湖を中心とする自然環境と調和のとれた農業・水産業を展開する	①生産性と持続性を両立した環境こだわり農業等の展開 ②環境と調和した全国のトップランナーとしてのオーガニック産地の拡大 ③環境と調和の取れた付加価値が伝わる生産・流通・消費の好循環の実現 ④漁場環境の保全再生と栄養塩等の健全な循環による水産資源の回復 ⑤耕畜連携による有機資源の有効活用
環境 2	地球温暖化対応策のさらなる推進に取り組む	①温暖化の進行を緩和する対策の展開 ②温暖化による影響への適応策の展開 ③2050年CO <sub>2</sub> ネットゼロに向けた中長期的な対応策の検討・実施
環境 3	自然災害などのリスクに対応する	①農業用ダム・ため池等の防災減災対策 ②家畜伝染病等の発生に備えた体制整備や養殖業における魚病対策の推進 ③自然災害等に対するリスクマネジメントの推進

具体的施策

つながる、つづく、



## 視点「経済」

### 経済 1

需要の変化に対応できる生産力を確保する

- ①日本有数の米どころとしてのさらなる躍進
- ②麦大豆の安定供給を目指した取組の推進
- ③汎用性が高くスマート農業の導入にも対応する基盤整備の推進
- ④選ばれる近江牛づくりの推進および持続可能な県産畜産物の生産
- ⑤水産資源の管理と持続的利用の推進
- ⑥地域の漁場の利用適正化

### 経済 2

地域の魅力や強みを生かした生産を進める

- ①都市近郊の強みを生かす野菜、花き、果樹の億円産地づくり
- ②茶の特色ある産地づくり
- ③地域を元気にする特産づくり
- ④琵琶湖ならではの自然資源を利用した漁業生産の推進

### 経済 3

経営体質の強化を進める

- ①農業・水産業の担い手の経営体質強化
- ②省力・効率化につながる農業生産基盤の整備

### 経済 4

消費喚起によるブランド力の向上および販路拡大

- ①滋賀ブランドとして消費者が選ぶ近江米
- ②近江牛をはじめとした県産畜産物の魅力発信
- ③都市近郊の強みを生かした野菜、果物、花き等の販売力の強化
- ④県産農畜水産物を世界へ
- ⑤琵琶湖八珍のブランド力強化および湖魚が届く流通の効率化促進
- ⑥「食」を通じた県産農畜水産物の魅力発信や消費拡大

具体的施策

## 視点「社会」

### 社会 1

農山漁村に関わる人を増やす

- ①地域の魅力強化に向けた関係人口の創出
- ②漁と魚と料理を堪能できる漁村の創造

### 社会 2

多様な主体との連携強化で農山漁村の暮らしの維持・活性化を図る

- ①農作物の鳥獣被害を少なくする取組の推進
- ②農村コミュニティを維持・活性化する取組の推進
- ③異業種との連携による地域の活性化

### 社会 3

地域全体で生産基盤を守る

- ①農業・水産業生産基盤の整備
- ②多様な主体の連携・協働による地域資源の保全・活用

具体的施策

基本理念「つながる、つづく、しがの農業・水産業」を念頭に置いた「目指す2035年の姿」の詳細と、その姿の実現に向けた県の具体的施策を示します。

(1) 共通視点「人」 農業・水産業の担い手が確保・育成されるとともに、生産者と消費者のつながりが深まり、誰もが農業・水産業を身近に感じている

# 人

# 1

## 担い手を確保・育成する



### 【目指す2035年の姿】

農業・水産業の担い手や、地域を支える人材が確保・育成され、世代や地域を超えたつながりが深まることで、農業・水産業の営みが続いていく体制が構築されています。また、子どもや若者にとって魅力的な農業者・漁業者が数多く生まれ、職業としての農業・水産業の魅力が高まることで、子ども・若者にとって農業・水産業がより身近な存在となっています。

### 【目指す姿の実現に向けた具体的施策】

次世代の本県農業・水産業を担う新規就農者、新規漁業就業者が安心して就農・就業できることをはじめ、その後の定着から安定した経営の継続に至るまでの継続的な支援を行います。また、地域の中核となる人材の育成や女性農業者の育成を進め、将来的に農業委員会等意思決定機関に参画する女性割合の増加を目指すとともに、子どもや若者が憧れる経営体の育成に向け、経営発展や規模拡大への支援を行います。

#### ① 次世代の本県農業・水産業を担う新規就農者・漁業就業者の確保・育成

[農業]

- 教育機関との連携強化による高校生や大学生等に対する就農意欲の喚起
- 「たんぼのこ」や学校給食による農業の理解促進
- 円滑な就農や経営継承に向けた情報提供や相談活動の推進
- 就農希望者向けの基礎講座や短期農業体験等の推進
- 農業大学校における専門技術や経営に関する学習の充実と就農支援
- 農業大学校や先進経営体での就農前研修に対する経済支援
- 新規就農者の早期経営安定のための技術経営指導や経営開始初期の経済支援および機械施設等導入支援
- 農業法人等への就農を促進するためのマッチング支援
- 農業高校や農業大学校と連携した畜産の専門的な学びの場の提供

[水産業]

- 漁業就業希望者の相談窓口業務および体験・技術習得研修の充実
- 新規漁業就業者の一人立ちに必要な漁労に要する経費を支援
- 市町との連携による新規漁業就業者の移住を支援
- 漁業共済の加入促進 【経済・3から再掲】
- 融資制度の運用と漁船・漁具のあっせん等により漁業経営の安定化を支援 【経済・3から再掲】
- 担い手に寄り添う水産業普及指導員の活動体制を強化 【経済・3から再掲】



- 効率的漁法の導入と実践支援および関連する漁業制度の整備 【経済・3から再掲】
- 漁協が実施する指導事業・販売事業等を支援 【経済・3から再掲】
- 漁船リース事業の導入を支援 【経済・3から再掲】

## ② 未来の本県農業を担う中核的な農業者の育成

- 地域計画をベースにした広域での担い手の話し合いの推進による担い手への農地の集積・集約化
- 農地中間管理機構を活用した担い手への農地の集積・集約化の推進
- 集落営農組織の維持・発展に向けた人材育成と経営力強化への支援
- 女性農業者の経営参画に向けた人材育成支援
- 女性農業者の相互研鑽スキル向上に向けたネットワーク構築支援
- 農業委員会等意思決定機関に参画する女性割合の増加を目的とした啓発 【人・2に再掲】

## ③ 子ども・若者など誰もが憧れる経営体の育成

- 先進農業者の高度な経営課題の解決に向けた専門家と連携した伴走支援 【経済・3に再掲】
- 農業法人等における就職就農者の定着率向上に向けた支援 【経済・3に再掲】
- 青年農業者の経営発展に向けた経営力の向上への支援 【経済・3に再掲】
- 新商品開発や販路開拓等の付加価値を向上する取組 【経済・2から再掲】
- 農業への企業参入支援および農業支援サービス事業者の取組支援
- 農業経営体の経営改善に向けた国際水準GAPの認証取得支援 【経済・3に再掲】
- 生産性向上に向けたスマート農業機械・施設等の導入支援 【経済・3に再掲】
- スマート農業の推進に資する試験研究の実施 【経済・3に再掲】
- 畜産経営の形態や規模に応じた、省力化機械やICT機器の計画的な導入を推進 【経済・3から再掲】

令和12年度（2030年度）を目標とする成果指標

No.	指標	単位	現状値 令和6年度 (2024年度)	目標値 令和12年度 (2030年度)
1	自営就農者数(R8~12の累計)	人	31	200 (R8~12の累計)
2	就職就農者数(R8~12の累計)	人	47	375 (R8~12の累計)
3	担い手への農地の集積率	%	69.1	75.0
4	広域での集積・集約化等に取り組む地域数	地域	—	19
5	農業法人数(個別経営、集落営農、企業等)【経済・3に再掲】	経営体	606 (R5)	680
6	女性の認定農業者等数	人	64 (R5)	100
7	新規漁業就業者数	人	14 (R3~6の累計)	20 (R8~12の累計)

人

2

農業・水産業、農山漁村を支える多様な人材を確保・育成する



### 【目指す 2035 年の姿】

農業・水産業、農山漁村を支える多様な人材が確保・育成され、地域の活性化や課題解決に貢献しています。生産の中心的な担い手と地域を支える多様な人材がつながり、互いに連携することで、地域の営みが将来にわたって続いていく体制が構築されています。

### 【目指す姿の実現に向けた具体的施策】

中山間地域をはじめとする農村地域等における活動組織・体制づくりの推進や、集落と企業・大学等との共同活動への支援等により、地域農業や農山漁村を支える多様な主体の確保・育成に取り組みます。また、半農半Xや農福連携の推進、農業高校生の学びや農村・漁村女性の活躍に対する支援等により、農業・水産業に関わる多様な支え手の拡大を図ります。

#### ① 地域農業や農村を支える多様な主体の確保・育成

- 集落内外の組織や非農家の住民との更なる連携、活動組織の広域化等を図りながら、地域資源（農地・水路・農道等）の共同保全活動を支援 【社会・3から再掲】
- 複数の集落間での活動の連携（ネットワーク化）や統合、企業・大学等の多様な組織の活動参画等、体制づくりを図りながら、中山間地域の農業生産活動の継続、農村景観の保全、地域の活性化を支援 【社会・2から再掲】
- 農村地域との交流を通じた地域外の学生や社会人等の関係・交流人口の創出と移住・二地域居住等の推進 【社会・1から再掲】

#### ② 農業・水産業に関わる支え手の拡大

- 半農半Xを含めた多様な人材による地域特産物の普及拡大による地域活性化
- 「しがの農×福ネットワーク」による情報発信および農業者と福祉事業者等とのマッチングの推進
- 家畜人工授精師、酪農ヘルパー等の畜産関係技術者の育成支援、技術向上
- 農業委員会等意思決定機関に参画する女性割合の増加を目的とした啓発 【人・1から再掲】
- 漁村における女性の活躍や浜の活性化に資する取組を支援
- 市町による漁村活性化を支援 【社会・2から再掲】
- 消費者等による漁村応援活動を促進 【社会・1に再掲】
- 「浜の活力再生プラン（浜プラン）」の作成と実践を支援 【社会・2から再掲】
- 漁船や漁具・漁網など関連事業者に関する支援 【経済・1に再掲】

令和12年度（2030年度）を目標とする成果指標

No.	指標	単位	現状値 令和6年度 (2024年度)	目標値 令和12年度 (2030年度)
8	農福連携に取り組む農業経営体等数	経営体	31	55
36	実行中の「浜プラン」策定地区数【社会・2から再掲】	地区	1	3
37	中山間地域の活性化に向け集落間連携や多様な主体との連携など体制強化を行った集落数【社会・2から再掲】	集落	51	100
39	農地や農業用施設を地域ぐるみの共同活動で維持保全されている農地面積割合【社会・3から再掲】	%	69.5	75.0



農地の共同保全活動（草刈り）



農村地域と地域外住民の交流



家畜人工授精講習会



漁協女性部によるPR活動

人

3

## 農業・水産業の魅力発信によるファン拡大



## 【目指す2035年の姿】

本県農業・水産業の魅力が子ども・若者を含む多くの消費者に伝わることで、県産農畜水産物や農山漁村に愛着を感じ、自ら学び、体験し、率先して購入するファンが拡大しています。このファンの「おいしい」の声が農業者・漁業者の「うれしい」につながり、生産現場から食卓まで、「おいしが うれしが」の輪が広がっています。

## 【目指す姿の実現に向けた具体的施策】

学校等と連携した子ども・若者への食育推進や、農山漁村地域での体験を通じた都市住民等との交流拡大により農業・水産業の魅力発信を図ります。また、世界農業遺産「琵琶湖システム」を活用した情報発信やPRイベントの実施等による、農業・水産業のファン拡大および関係人口の増加に向けた取組を進めます。

## ① 食育によるファン拡大

- 「たんぼのこ」等の農業体験や茶の淹れ方教室を通じた食育や茶育の推進
- 学校・保育所等の給食を通じた地産地消の理解促進
- 高校生や大学生等に対する農業者による出前講座
- 子どもたちやその家族等への食育活動を通じた近江米の消費拡大
- 直売所等の食材供給拠点としての機能強化による地産地消の推進
- ふれあい牧場や出前授業等を通じた畜産への理解醸成・食育の推進
- 消費者や観光客等に向けた湖魚の取扱情報や魅力の発信

## ② 都市と農山漁村の交流、農業・漁業体験等によるファン拡大

- 多様な主体が実施するふなずし漬け方講習会の開催を支援
- 漁協等が実施する漁業体験等の開催を促進 【社会・1に再掲】
- 河川漁協が実施する釣り教室等による遊漁人口拡大の取組を支援 【社会・1に再掲】
- 地域の特色を生かした「湖業（うみぎょう）」の展開を支援 【社会・1から再掲】
- 学校等における漁業体験学習や魚の放流体験学習等の活性化に対する支援 【社会・1に再掲】
- 醒井養鱒場における種苗供給・学習機会提供・観覧展示・研究機能の高度化 【経済・2から再掲】
- 農村地域での魅力的な体験プログラムの提供や情報発信による、教育旅行の学生、都市住民、訪日外国人等の関係・交流人口の創出やファン拡大 【社会・1に再掲】
- 旅行業・飲食業等の多様な企業と連携した、世界農業遺産「琵琶湖システム」を体感できる滋賀県ならではの農山漁村滞在型旅行の推進 【社会・2から再掲】
- 棚田の魅力発信等による棚田ボランティア等の関係・交流人口の創出を促進 【社会・1から再掲】
- 「琵琶湖システム」を体感する機会の創出やHP・SNS等の活用による「食」「体験」への誘導 【経済・4に再掲】
- 「琵琶湖システム」や農山漁村の魅力発信 【経済・4に再掲】



### ③ 本県農業・水産業の魅力発信

- HPやSNSを活用した県産農畜水産物やその加工品の魅力発信と販路拡大
- 飲食店等におけるフェア、イベント等を活用した県産農畜水産物の魅力発信と販路拡大
- 「おいしが うれしが」キャンペーンの推進 【経済・4に再掲】
- 商工・観光業と連携した近江牛の県内外へ向けた魅力発信 【経済・4から再掲】
- 琵琶湖八珍マイスターとの連携強化による湖魚のイメージ向上と消費者への利用訴求 【経済・4から再掲】
- 観光関連事業者等との連携による湖魚の消費喚起 【経済・4から再掲】
- 商業施設等でのPRイベントや現地ツアーによる「魚のゆりかご水田米」・「棚田米」の魅力発信 【経済・4から再掲】
- 県HP「グリーンツーリズム滋賀」による都市農村交流施設の魅力発信
- 出前講座や学校との連携による「琵琶湖システム」を学ぶ場の創出や認知度の向上
- 企業や学生など多様な主体等との連携による「琵琶湖システム」が育む食材などの魅力発信 【経済・4に再掲】
- HPやSNSを活用した「琵琶湖システム」が生み出す「食」や「景観」、「生業」等の魅力発信と理解の促進

### 令和12年度（2030年度）を目標とする成果指標

No.	指標	単位	現状値 令和6年度 (2024年度)	目標値 令和12年度 (2030年度)
9	農畜水産物PRに関する県運営のInstagramのフォロワー数	人	5,249	11,500
10	おいしが うれしがキャンペーン登録事業者数(生産者を除く)	事業者	1,205	1,500
11	琵琶湖の水産物を食べた県民の割合	%	67.1	85.0
12	漁業体験等で漁村を訪れる人数【社会・1に再掲】	人	9,164	10,000
13	出前講座受講者のうち、「琵琶湖システム」に関する行動を起こそうと思った人の割合	%	—	50.0
34	棚田ボランティアの年間参加延べ人数【社会・1から再掲】	人	425	600
38	「しがのアグリツーリズム」を通じて地域活性化に取り組む地域数【社会・2から再掲】	地域	7	12

(2) 視点「経済」 滋賀の強みを生かして、未来を切り拓くことができる、力強い農業・水産業が営まれている

## 経済

### 1

## 需要の変化に対応できる生産力を確保する



### 【目指す 2035 年の姿】

優れた技術の活用や関わる人々の連携によって、農業・水産業が高い生産力を獲得しています。高められた生産力は、移り変わる需要への柔軟な対応を可能にし、消費者や実需者に選ばれる産地を形成します。需要に応え続けることで、生産と消費のつながりが強まり、持続的で力強い農業・水産業の営みが続いています。

### 【目指す姿の実現に向けた具体的施策】

収量・品質の向上や耕畜連携の推進による「米どころ」としての更なる地位向上、契約に基づく生産の維持・拡大等による麦・大豆の安定供給に向けた取組を進めるとともに、スマート農業に対応できる基盤整備に取り組みます。加えて、近江牛をはじめとした県産畜産物の持続的な生産や、水産資源の管理と持続的な利用を推進します。

#### ① 日本有数の米どころとしてのさらなる躍進

- 新たな需要の開拓に対応した主食用米の生産量の拡大
- 気候変動に対応した主食用米、酒米の栽培技術の確立・推進
- 気候変動の影響を受けにくい県オリジナル品種「みずかがみ」「きらみずき」等の生産拡大
- 近江米のブランド力向上に向けたオーガニック「きらみずき」の生産拡大 【環境・1から再掲】
- 未来の需要を見据えた品種育成
- 水田輪作体系の技術開発
- 主要農作物の種子の安定生産

#### ② 麦大豆の安定供給を目指した取組の推進

- 契約栽培に基づく生産体制の維持拡大
- 麦大豆の収量・品質・安定生産の確保
- パン用等の新たな用途に適した小麦品種の選定と普及
- 需要の変化に対応した大豆品種の選定等にかかる試験研究

#### ③ 汎用性が高くスマート農業の導入にも対応する基盤整備の推進

- 作業効率の向上や、自動直進トラクタ等の導入を推進するほ場の大区画化 【経済・3に再掲】
- 維持管理の省力化に資するICT技術（自動草刈り機等）の導入を推進するための拡幅畦畔、畦畔法面の緩傾斜化や、末端用排水路の管渠化 【経済・3に再掲】
- 水管理の省力化に資するICT技術（自動給水栓等）の導入 【経済・3から再掲】

#### ④ 選ばれる近江牛づくりの推進および持続可能な県産畜産物の生産

- 「牛よし、人よし、社会よし」の三方よしの近江牛生産による選ばれる近江牛づくりの推進 【経済・4に再掲】
- 和牛子牛の地域内一貫生産の推進



- 高能力で繁殖性の良い繁殖雌牛群の整備支援
- 畜産クラスター等の取組による地域関係者の連携推進
- 滋賀県産牛乳の安定生産へ向けた酪農生産基盤の強化 【経済・4に再掲】
- 近江しゃもの安定供給の推進
- 地域資源を活用した養鶏・養豚の振興 【経済・4に再掲】

### ⑤ 水産資源の管理と持続的利用の推進

- 気候変動や漁場生産力、資源状況を踏まえた重要魚介類の種苗放流の推進 【環境・2に再掲】
- 老朽化した種苗生産施設の機能維持を図るための適切な点検整備や改修 【環境・3に再掲】
- 漁獲情報を電子情報として日々収集・集計する漁獲情報システムの運用
- 漁獲量等の情報から主要魚介類の速やかな資源評価の実施
- 資源評価に基づく資源管理型漁業の促進
- 遊漁による資源の利用調整と適正化を推進
- 漁船や漁具・漁網など関連事業者に関する支援 【人・2から再掲】

### ⑥ 地域の漁場の利用適正化

- 漁業権漁場の適切で有効な利用の推進
- 遊漁の電子手帖「FiShiga（フィッシガ）」の運用と活用拡大による遊漁の適正化を推進
- 遊漁による漁場の利用調整と適正化を推進

令和12年度（2030年度）を目標とする成果指標

No.	指標	単位	現状値 令和6年度 (2024年度)	目標値 令和12年度 (2030年度)
14	全国の主食用米需要量に占める近江米のシェア	%	2.11	2.30
15	西日本における滋賀県産米(うるち玄米)の一等米比率の順位	順位 (%)	4位 (58.8)	1位 (80.0)
16	麦の単収	kg/10a	319	380
17	大豆の単収	kg/10a	71	160
18	近江牛の飼養頭数	頭	17,004	17,800
19	和牛子牛の県内出生頭数	頭	1,570	2,000
20	琵琶湖の漁獲量(外来魚除く)	トン	652 (R5)	1,000
21	滋賀県資源管理方針に定めた資源管理目標水準の達成魚種数	魚種	2	5
22	スマート農業が活用できる基盤整備に新規着手する集落数【経済・3、社会・3に再掲】	集落	134	210
29	自動給水栓の設置面積【経済・3から再掲】	ha	288	860

経済

2

地域の魅力や強みを生かした生産を進める



【目指す 2035 年の姿】

多くの生産者や関係者の強固なつながりによって、地域ならではの魅力や強みを生かした生産が進められ、地域内外からの高い評価を得ています。それぞれの産品や取組を通じて生まれた新たなつながりは、交流人口の創出や産品への需要の増大等、取組の継続・発展を促す推進力となり、地域の魅力や強みが磨かれ続ける好循環が生まれています。

【目指す姿の実現に向けた具体的施策】

都市近郊という滋賀県の強みを生かした野菜、花き、果樹の市場出荷型および誘客型産地の育成を進めるとともに、湖魚や魚のゆりかご水田、伝統野菜等、滋賀県にしかない産品の生産力・付加価値の向上に取り組めます。また、茶の特色ある産地づくりや地域の特産づくりなど、地域の魅力や強みを生かす新たな取組を進めます。

① 都市近郊の強みを生かす野菜、花き、果樹の億円産地づくり

- 実需者との連携強化による「億円産地」の育成
- オリジナルいちご品種「みおしずく」の生産拡大
- 各地域の中核的園芸産地の強化
- 新品種の育成（いちご）や生産性を高める技術の開発
- 水田を活用した園芸作物の生産拡大
- 果樹の誘客型「億円産地」の育成

② 茶の特色ある産地づくり

- 輸出の拡大など需要の変化に対応できる産地の育成
- 特色のあるオーガニック茶の開発と生産拡大
- 国内需要に応える高品質な茶の安定生産の推進

③ 地域を元気にする特産づくり

- 新商品開発や販路開拓等の付加価値を向上する取組 【人・1、経済・3に再掲】
- 学校給食における地場農産物の活用促進
- 新たな地域特産づくり（オリーブ等）
- 「魚のゆりかご水田」をはじめとする豊かな生き物を育む水田の普及拡大 【環境・1から再掲】
- 認知度向上や魅力を伝えるための「琵琶湖システム」関連商品等の開発 【社会・2、社会・3に再掲】
- 都市農業の「農産物を供給する機能」等の発揮に向けた研修会等の開催

#### ④ 琵琶湖ならではの自然資源を利用した漁業生産の推進

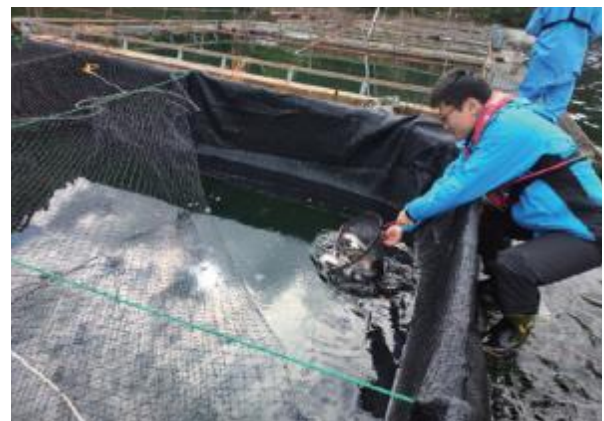
- 資源評価に基づく水産資源の最大利用を推進
- ヒウオの鮮魚利用の促進
- 未利用水産資源（ニゴイ等）の有効活用を促進
- 琵琶湖産アユ、ビワマス（びわサーモン）、淡水真珠等、地域特産種の養殖業を振興
- 琵琶湖の漁場生産力を生かした湖中養殖業を推進
- 本県水産物の魅力や付加価値の向上、流通促進につながる商品開発や水産加工の高度化の促進
- 醒井養鱒場における種苗供給・学習機会提供・観覧展示・研究機能の高度化 【人・3に再掲】

#### 令和12年度（2030年度）を目標とする成果指標

No.	指標	単位	現状値 令和6年度 (2024年度)	目標値 令和12年度 (2030年度)
23	1億円以上の売上を維持または目指す産地・経営体数(野菜、果樹、花き、茶)	産地または 経営体数	29	39
24	みおしずくの栽培面積	ha	3.8	6
25	オーガニック茶栽培面積	ha	13.8	20
26	学校給食における地場産利用を拡大する取組のモデル数	箇所	—	6
27	魚類等の養殖生産量	トン	311 (R5)	390
49	豊かな生き物を育む水田づくりに取り組む地区数 【環境・1から再掲】	地区	17	27



「みおしずく」の生産拡大



ビワマス等地域特産種の養殖業の振興

**経済 3 経営体質の強化を進める**



**【目指す 2035 年の姿】**

スマート農業をはじめとする先端技術の導入や経営力の向上によって、担い手自身の経営体質が強化されるとともに、省力・効率化をもたらす生産基盤や生産を支援する体制等が整備されています。

担い手は強い経営体質と整った生産基盤の下、中長期的な視点を持って積極的に挑戦できる経済的な余力を持てるようになり、将来にわたり安定的に経営を続ける体制が構築されています。

**【目指す姿の実現に向けた具体的施策】**

スマート農業等の技術導入による生産性の向上や、経営体のマネジメント力強化、団体再編による組織力強化等により、農業・水産業の担い手の経営体質の強化を図ります。また、農地のフル活用に資する農業水利施設の整備更新や農地の基盤整備、スマート農業に対応した農地の基盤整備等、省力・効率化につながる農業生産基盤の整備に取り組みます。

**① 農業・水産業の担い手の経営体質強化**

[ 農業 ]

- 生産性向上に向けたスマート農業機械・施設等の導入支援 【人・1 から再掲】
- 機械の自動操舵や施設の環境制御等のスマート農業の導入支援
- スマート農業の推進に資する試験研究の実施 【人・1 から再掲】
- 先進農業者の高度な経営課題の解決に向けた専門家と連携した伴走支援 【人・1 から再掲】
- 農業法人等における就職就農者の定着率向上に向けた支援 【人・1 から再掲】
- 青年農業者の経営発展に向けた経営力の向上への支援 【人・1 から再掲】
- 新商品開発や販路開拓等の付加価値を向上する取組 【経済・2 から再掲】
- 農業経営体の経営改善に向けた国際水準GAPの認証取得支援 【人・1 から再掲】
- 畜産経営の形態や規模に応じた、省力化機械やICT機器の計画的な導入を推進 【人・1 に再掲】
- 酪農ヘルパーや作業受託組織など、外部支援組織の活用を推進

[ 水産業 ]

- 漁業団体の再編による組織強化と機能の充実の促進
- 漁業共済の加入促進 【人・1 に再掲】
- 融資制度の運用と漁船・漁具のあっせん等により漁業経営の安定化を支援 【人・1 に再掲】
- 担い手に寄り添う水産業普及指導員の活動体制を強化 【人・1 に再掲】
- 効率的漁法の導入と実践支援および関連する漁業制度の整備 【人・1 に再掲】
- 漁協が実施する指導事業・販売事業等を支援 【人・1 に再掲】
- 漁船リース事業の導入を支援 【人・1 に再掲】

## ② 省力・効率化につながる農業生産基盤の整備

- 作業効率の向上や、自動直進トラクタ等の導入を推進するほ場の大区画化 【経済・1から再掲】
- 水田の畑地利用や畑作物の品質・大型機械の作業効率の向上に資する暗渠等による排水改良
- 維持管理の省力化に資するICT技術（自動草刈り機等）の導入を推進するための拡幅畦畔、畦畔法面の緩傾斜化や、末端用排水路の管渠化 【経済・1から再掲】
- 多様化する用水需要に対応した農業水利施設の管理システムの導入
- 水管理の省力化に資するICT技術（自動給水栓等）の導入 【経済・1に再掲】

### 令和12年度（2030年度）を目標とする成果指標

No.	指標	単位	現状値 令和6年度 (2024年度)	目標値 令和12年度 (2030年度)
5	農業法人数(個別経営、集落営農、企業等) 【人・1から再掲】	経営体	606 (R5)	680
22	スマート農業が活用できる基盤整備に新規着手する 集落数【経済・1から再掲】	集落	134	210
28	漁業を主とする経営体の平均水揚額	千円	6,658	9,000
29	自動給水栓の設置面積【経済・1に再掲】	ha	288	860



ドローン等のスマート農業機械の導入



農業水利施設での水管理（監視・制御）

経済

4

消費喚起によるブランド力の向上および販路拡大



【目指す 2035 年の姿】

生産者や産地が消費者や実需者の期待に応え続けることで、お互いの理解が深まり、強い信頼関係が形成されています。生産者と「信頼」で結ばれた消費者が、優先的に県産農畜水産物を選び続けることで「ブランド力」が高まっています。ブランド力の向上が、消費・販路拡大の可能性を高め、消費者の「おいしい」と生産者の「うれしい」がより強く、深くつながることで、将来にわたって農業・水産業が続いていきます。

【目指す姿の実現に向けた具体的施策】

県オリジナル品種の「きらみずき」・「みずかがみ」をフラッグシップに、県を代表する農産物である「近江米」の更なる消費拡大を図ります。いちご「みおしずく」をはじめとする園芸品目については、都市近郊の強みを生かし、市場流通の強化や地域内流通体制の構築等を進めます。また、近江牛や近江の茶等の輸出や「琵琶湖八珍」等地域ブランド製品の育成・強化を図るとともに、「食」の魅力発信を通じて、選ばれ続ける県産農畜水産物の安定供給と消費拡大を促進します。

① 滋賀ブランドとして消費者が選ぶ近江米

- 近江米の消費拡大を目的とした安全・安心・おいしい「近江米」のPR
- 食味ランキングにおける「みずかがみ」等の特A評価の取得
- 情報発信力の強い首都圏等における「きらみずき」の新たな販路開拓と魅力発信
- 酒米新品種の育成と需要に応じた生産の推進

② 近江牛をはじめとした県産畜産物の魅力発信

- 「牛よし、人よし、社会よし」の三方よしの近江牛生産による選ばれる近江牛づくりの推進 【経済・1から再掲】
- 商工・観光業と連携した近江牛の県内外へ向けた魅力発信 【人・3に再掲】
- 近江しゃものブランド力向上に向けた技術開発・普及
- 滋賀県産牛乳の安定生産へ向けた酪農生産基盤の強化 【経済・1から再掲】
- 地域資源を活用した養鶏・養豚の振興 【経済・1から再掲】

③ 都市近郊の強みを生かした野菜、果物、花き等の販売力の強化

- オリジナルいちご品種「みおしずく」のブランド力強化
- 市場出荷に対応した生産・流通体制の強化
- 加工業務用需要に対応した安定生産・出荷体制の強化
- 直売所を拠点とした地域内流通体制の強化



④ 県産農畜水産物を世界へ

- 近江米の販路開拓等による輸出の取組支援
- 特色のあるオーガニック茶の開発と輸出の促進
- 滋賀県農畜水産物等輸出促進協議会と連携した海外における販路拡大
- 近江牛の販路開拓等による輸出の促進

⑤ 琵琶湖八珍のブランド力強化および湖魚が届く流通の効率化促進

- 琵琶湖八珍マイスターとの連携強化による湖魚のイメージ向上と消費者への利用訴求 【人・3に再掲】
- 観光関連事業者等との連携による湖魚の消費喚起 【人・3に再掲】
- 漁獲物の鮮度保持と規格化に取り組む漁業者を支援
- 県域での琵琶湖産魚介類の集出荷体制の確立
- 大都市圏への多様な流通経路の拡充を促進
- ICT等を活用した新たな流通・販路開拓の取組を支援

⑥ 「食」を通じた県産農畜水産物の魅力発信や消費拡大

- 飲食店等におけるフェア、イベント等を活用した滋賀県産農畜水産物の魅力発信と販路拡大
- 食品関連事業者等と連携した県産農畜産物の魅力発信と消費拡大
- 「おいしが うれしが」キャンペーンの推進 【人・3から再掲】
- GIを活用したブランド力の強化
- 商業施設等でのPRイベントや現地ツアーによる「魚のゆりかご水田米」・「棚田米」の魅力発信 【人・3に再掲】
- 「琵琶湖システム」を体感する機会の創出やHP・SNS等の活用による「食」「体験」への誘導 【人・3から再掲】
- 「琵琶湖システム」や農山漁村の魅力発信 【人・3から再掲】
- 企業や学生など多様な主体等との連携による「琵琶湖システム」が育む食材などの魅力発信 【人・3から再掲】

令和12年度（2030年度）を目標とする成果指標

No.	指標	単位	現状値 令和6年度 (2024年度)	目標値 令和12年度 (2030年度)
30	近江米の相対取引価格の西日本での順位	順位	9	1
31	食味ランキングでの「特A」取得品種数	品種数	1	3
32	琵琶湖八珍マイスター登録件数	件	284	310